

造石稅 一石ニ付 二百十五圓ニアルコール分四十五度ヲ超ユル一度毎ニ六圓ヲ加ヘタ

ル金額 五十五圓 八十七圓八十錢

七 雜果麥實酒 庫出稅 一石ニ付 一石ニ付 一石ニ付

庫出稅 造石稅

五十圓 五十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコール分二十度ヲ超ユル一 度每ニ六圓ヲ加フ

百斤ニ付 百斤ニ付 百斤ニ付

八圓 八圓 八圓

消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付二圓

十六圓

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付

十五圓

第三種 氷砂糖 角砂糖 棒砂糖其ノ他類似ノモノ
甲 氷砂糖 百斤ニ付

消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付四圓

十六圓

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜
百分ノ二十

百斤ニ付

八圓

消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付四圓

三 糖水

第二種 其ノ他ノ糖蜜
百分ノ三十

百斤ニ付

四圓五十錢

十圓

第四條 物品稅法中左ノ通改正ス

第一條第一項第一種第十四號中「トランク」ノ下ニ「類並ニ行李」ヲ、同種第十八號中「玩具」ノ下ニ「遊戯具、搖籃及乳母車類」ヲ加ヘ同種第十五號中「靴及」ヲ削ル

同種ニ左ノ如ク加フ

三十二 庭木竈ニ庭園用ノ石材及石工品

三十三 簾、釣燈籠及提灯類

三十四 鐵瓶竈ニ茶道及香道用具

三十五 扇子及團扇

三十六 花輪及花束類

三十七 魚用具類

丙 類

三十八 靴

三十九 臨務用器具

同項第二種第十七號中「受信用眞空管」ノ下ニ「マイクロボン」ヲ、同種第二十三號中「紅茶」ノ下ニ「烏龍茶、包種茶」ヲ加フ

同種ニ左ノ如ク加フ

二十五 煙火類

二十六 烹物及線香類

二十七 大理石及之ヲ原料トスル擬石竈ニ陶磁器製オイル

丙 類

二十九 携行用ノ電燈、同ケーブ及電池

三十 魔法瓶、水筒類及同部分品

三十一 計算機

三十二 タイプライター、同部分品及附屬品

三十三 輪轉謄寫機及同附屬品

第五條第一項及第二項中「(濁酒ヲ除ク)」ヲ削リ同條第一項及第三項中「石數」ノ下ニ「(第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ命令ヲ以テ定ムル酒類ニ付テハ數量及價格)」ヲ加フハ命令ヲ以テ定ムル價格ニ左ノ割合ヲ乗ジテ算出シタル金額ヲ前條ノ規定ニ依ル酒類庫出稅額ニ加算ス

第一項 清酒、味淋及果實酒
酒類庫出稅 一石ニ付
百分ノ二十
第二項 雜酒
酒類庫出稅 一石ニ付
百分ノ三十
第三條 第二項及第六十四條第三項中「酒類造石稅」ノ下ニ「及酒類庫出稅ヲ加フ規定ニ依リ」ニ改ム
第六十八條第二項中「第二十七條ノ稅率ニ依リ」ヲ「第二十七條及第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ」ニ改ム
第八十四條第一項中「二圓十錢」ヲ「三圓二十錢」ニ、「百一圓」ヲ「百六十圓」ニ、「二圓八十錢」ヲ「四圓八十錢」ニ改ム
圓八十錢

第二條 清涼飲料稅法中左ノ通改正ス

第二條中「八圓五十錢」ヲ「十二圓」ニ、「二十圓」ヲ「三十圓」ニ、「六圓」ヲ「十一圓」ニ改ム
第三條 砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第一條中「糖水」ノ下ニ「甘蔗又ハ甜菜ヲ原料トシテ製造シタル糖汁ヲ含ム」ヲ加フ
第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ

一 砂糖

第一種 分蜜セサル砂糖

甲 摻入黑糖及摻入白下糖但シ黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノノ竈ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

乙 其ノ他ノモノ
五百斤ニ付 七圓三十錢

第二種 其ノ他ノ砂糖但シ冰砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノヲ除ク
甲 蔗糖ノ重量全重量ノ百分ノ八十六ヲ超エサルモノ
五百斤ニ付 五圓

乙 其ノ他ノモノ
五百斤ニ付 八圓
十二圓

三十四 金錢登錄機

三十五 タイムスタンプ及同附屬品

三十六 ミシン及ミシン用針

三十七 板硝子

三十八 紙及セロファン

三十九 齒磨

四十一 緑茶

四十二 調味料

同項第三種ニ左ノ一號ヲ加フ

三 サッカリン

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ甲類及乙類若ハ

甲類及丙類又ハ甲類、乙類及丙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トシ乙類及丙類ニ該

當スルモノハ之ヲ乙類トス

第二條 物品税ノ税率左ノ如シ

第一種

甲類

乙類

丙類

第二種

甲類

乙類

丙類

第三種

甲類

乙類

丙類

一 燻寸 千本ニ付

五錢

物品ノ價格百分ノ五十
物品ノ價格百分ノ二十
物品ノ價格百分ノ十

第二條 遊興飲食税ノ税率左ノ如シ

一 藝妓ノ花代

二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ(以下其ノ他ノ花代ト

稱ス)

三 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ伴フ遊興飲食ノ料金但シ藝妓ノ花代及其ノ他

ノ花代ヲ除ク

四 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金但シ藝妓ノ花代及其ノ他

ノ花代ヲ除ク

料金ノ百分ノ百
料金ノ百分ノ五十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ百

料金ノ百分ノ二十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ三十
料金ノ百分ノ三十

乗車船區間百六十杆以下ナルトキ
一等 三十錢
二等 五十圓
三等 五十五圓

麻雀場、舞踏場、ゴルフ場

入場料ノ百分ノ三十
入場料ノ百分ノ五十

乗車船區間三百杆以下ナルトキ
一等 三十錢
二等 五十圓
三等 五十五圓

特別入場稅ノ稅率左ノ如ク改ム
特別入場料ノ百分ノ二十
特別入場料ノ百分ノ三十
特別入場料ノ百分ノ三十
特別入場料ノ百分ノ三十
特別入場料ノ百分ノ三十
特別入場料ノ百分ノ三十

乗車船區間五百杆以下ナルトキ
一等 七十圓
二等 一百圓
三等 一百五十圓

旅館ノ用ニ供スル家屋
撞球場、麻雀場其ノ他命令ヲ以テ定ムル遊技場ノ用ニ供スル家屋
俱樂部、會館其ノ他名稱ノ何タルヲ問ハズ會「其ノ他命令ヲ以テ定ムル者」ノ
親睦ヲ圖リ又ハ其ノ慰安若ハ娛樂ノ用ニ供スル家屋
特别入場料ノ百分ノ三十
特别入場料ノ百分ノ三十
特别入場料ノ百分ノ三十
特别入場料ノ百分ノ三十
特别入場料ノ百分ノ三十
特别入場料ノ百分ノ三十

乗車船區間五百杆超ユルトキ
一等 七十圓
二等 一百圓
三等 一百五十圓

建築稅法中左ノ通改正ス

第一條 左ノ三號ヲ加フ

同條第五項ヲ左ノ如ク改ム

貸切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等 貸切運賃ノ百分ノ二十
二等 貸切運賃ノ百分ノ十五
三等 貸切運賃ノ百分ノ十

第九條 骨牌稅法中左ノ通改正ス

第四條 中「五圓」ヲ「十圓」ニ、「七十錢」ヲ「一圓五十錢」ニ改ム

第十條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條 第一項第六號中「三錢」ヲ「五錢」ニ、「十錢」ヲ「二十錢」ニ、「三十錢」ヲ「六十

錢」ニ、「六十錢」ヲ「一圓二十錢」ニ、「九十錢」ヲ「一圓八十錢」ニ、「一圓五十錢」ヲ

三圓」ニ、「三圓」ヲ「六圓」ニ改ム

第四條 中「百分ノ十」ヲ「百分ノ二十」ニ改ム

第五條 地方分與稅法中左ノ通改正ス

第六條 第二項及第六條第一項中「百分ノ五十」ヲ「百分ノ十五・一八」ニ改ム

第七條 第二項中左ノ一項ヲ加フ

第八條 第二項中「百分ノ十五・一八トアルハ昭和十六年度分ニ付テハ百分ノ二十九・三
ノ外左ノ稅率ニ依リ通行稅ヲ課ス

第五條 第二項中「百分ノ十五・一八」ニ改ム

第六條 第二項中「百分ノ五十」ヲ「百分ノ五十・一八」ニ改ム

第七條 第二項中「百分ノ二十九・三」ニ付テハ百分ノ二十九・三五トス

附則

第八條 第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第六條 第二項中百分ノ十五・一八トアルハ昭和十七年度分ニ付テハ百分ノ五十・昭
和十八年度分ニ付テハ百分ノ二十九・三五トス

第一條 本法ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ規定施行ノ期日ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 酒類ノ製造者又ハ販賣業者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ
於テ各種類ヲ通じ合計五石以上ノ酒類ヲ所持スル場合及其ノ所持スル酒類ガ合計五

石ニ満タザルモ酒稅法第二十七條ノ二ノ改正規定ニ依リ命令ヲ以テ定ムル酒類ガ合
計一石以上ナル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看
做シ其ノ所持スル酒類ニ對シ酒類庫出稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於
テ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ濁酒ニ付テハ一石ニ付十五圓ノ割
合ニ依リ算出シタル金額、其ノ他ノ酒類ニ付テハ酒稅法第二十七條ノ改正稅率ニ依
リ算出シタル金額ト從前ノ稅率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ
命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス但シ同法第二十七條ノ二ノ改正規定ニ依リ命令ヲ
以テ定ムル酒類ニ付テハ同條ニ規定スル價格ニ同條ニ規定スル割合ヲ乘ジテ算出シ
タル金額ヲ本文ノ規定ニ依リ算出シタル酒類庫出稅額ニ加算シタルモノヲ以テ其ノ

第一種ノ場所
入場料ガ一人一回五十錢未滿ナルトキ
入場料ガ一人一回一圓未滿ナルトキ
入場料ガ一人一回三圓未滿ナルトキ
入場料ガ一人一回五圓未滿ナルトキ
入場料ガ一人一回五圓以上ナルトキ
回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ
第二種ノ場所
撞球場、スケート場
入場料ノ百分ノ二十

税額トス

東京府小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造シタル清酒及焼酎ニ付前項ノ規定ヲ適用スル

場合ニ於テハ一石ニ付二十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第三條 本法施行ノ際製造場ニ現存スル酒類ニシテ戻入又ハ移入シタルモノニ付テハ

酒稅法第三十八條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ移出シタルトキ酒類庫出稅ヲ徵收ス此ノ場合

ニ於テハ前條第一項後段及第二項ニ規定スル稅額ヲ以テ其ノ税額トス

第四條 本法施行ノ際製造場以外ノ場所ニ於テ同一人ガ五石以上ノ第二種ノ清涼飲料

ヲ持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ持者ヲ以テ製造者ト看做シ

濟涼飲料稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ清涼飲料ヲ製造場外ニ

移出シタルモノト看做シ一石ニ付十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ其ノ税額トシ

命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料ノ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

第五條 改正前ノ稅率ニ依リ消費稅ヲ課セラレタル砂糖、精蜜又ハ糖水ヲ原料トシテ製

造シタル砂糖(第三種ノ砂糖ヲ除ク)精蜜又ハ糖水ニシテ本法施行後製造場ヨリ引取

ラルモノニ付テハ砂糖消費稅法第十二條ノ規定ニ拘ラズ砂糖消費稅ヲ徵收ス此ノ

場合ニ於テハ同法第三條ノ改正稅率ニ依リ算出シタル金額ト從前ノ稅率ニ依リ算出

シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トス

改正前ノ稅率ニ依リ消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタル第三種

ノ砂糖ニシテ本法施行後製造場ヨリ引取ラルモノニ付テハ改正後ノ砂糖消費稅法

第三條ニ規定スル水砂糖ノ稅率百斤ニ付二圓ハ之ヲ百斤ニ付六圓トス

第六條 本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ各種類ヲ通じ合

計一萬斤以上ノ砂糖、精蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ガ本法施行ノ日

ニ於テ之ヲ製造場ヨリ引取りタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ

砂糖消費稅法第三條ノ改正稅率ニ依リ算出シタル金額ト從前ノ稅率ニ依リ算出シタ

ル金額トノ差額(第三種ノ砂糖ニ在リテハ水砂糖ハ百斤ニ付二圓五十錢、其ノ他ノ

モノハ百斤ニ付三圓五十錢ノ割合ニ依リ算出シタル金額)ヲ以テ其ノ稅額トシ命令

ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ砂糖、精蜜又ハ糖水ノ持者ハ其ノ所持スル砂糖、精蜜又ハ糖水ノ種別、數

量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

(國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル)
○國務大臣(賀屋興宣君) 只今議題ト相成
リマシタ酒稅等ノ増徵等ニ關スル法律案ニ付キ、其ノ概要ヲ説明致シタイト存
ジマス、現下ノ緊迫セル諸情勢ノ下ニ于キマシテ、支那事變ヲ完遂シ、東亞共榮圈ノ
確立ヲ圖ル爲ニハ、臨時軍事費ヲ始メ戰時

民購買力ノ吸收、消費ノ抑制ヲ圖ルノ必要
ガアルノデアリマス、而シテ其ノ必要性ハ
今後益々增加スルモノト認メラル、ノデアリ
マス、政府ト致シマシテハ、將來ニ於ケル
財政需用ノ増加、國民經濟及國民生活ニ及
ベキ影響等ニ付キマシテ十分ノ考究ヲ遂
ゲ、稅制ノ全般ニ亘る增稅計畫ヲ樹立致シ
マシテ、之ヲ實行スペク銳意調査ヲ進メテ
參ッタノデアリマスルガ、全般ノ計畫ノ樹立
ニハ尙相當ノ検討ヲ要シマスルシ、又一面
臨時議會ノ會期等ノコトヲモ併セ考ヘマシ
テ、此ノ際早急ニ實施ヲ要スル購買力ノ吸
收、消費ノ節約ヲ圖リマスルト共ニ、適當
リ增加スベキ臨時軍事費ノ財源ノ一部ニ充

ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ課セラ
品稅ヲ徵收ス但シ從前ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課セラレタル物品ニ付テハ其ノ課セラ
レタル稅額ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

一 改正後ノ物品稅法第一條ニ掲タル第二種ノ物品ニシテ同條各號ニ掲タル品名每
ニ價格二千圓以上ノモノ

二 餡、葡萄糖又ハ麥芽糖ニシテ合計一萬斤以上ノモノ

三 三十斤以上ノサツカリン

前項ノ製造者又ハ販賣者ハ同項第一號ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯
藏ノ場所ニ於テ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本

法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

第九條 改正後ノ建築稅法第一條第四號乃至第六號及第四條ノ規定ハ本法施行後竣成
スル家屋ノ建築ニ付テヲ適用ス

本法施行前新築竣成シタル建築稅法第一條第一號乃至第三號ニ掲タル家屋ニシテ建
築價額一萬圓未滿ノモノニ關シ同法第三條第一項ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スル場合
ニ於テハ前ノ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ十三相当スル金額ヲ其

ノ建築稅額ヨリ控除ス

本法施行前新築竣成シタル建築稅法第一條第一號乃至第三號ニ掲タル家屋ニシテ建
築價額一萬圓以上ノモノニ關シ同法第三條ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スル場合ニ於テ
ハ前ノ規定ニ依リ建築稅額ノ二倍ニ相當スル金額ヲ其ノ建築稅額ヨリ控除ス

建築稅法第三條ノ規定ハ改正後ノ同法第一條第四號乃至第六號ニ掲タル家屋ノ新築
ガ本法施行前竣成シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十條 本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ニハ製造又ハ販

賣ヲ爲ス者ニ於テ骨牌稅法第四條ノ改正規定ニ依ル稅額ト從前ノ規定ニ依ル稅額ト
ノ差額ニ相當スル印紙ヲ增貼スベシ

テマスル爲、茲ニ間接稅ヲ中心トスル増稅案ヲ今回ノ臨時議會ニ提出スルコトト致シタ次第アリマス、直接稅ノ增徵等ニ付キマシテハ、次ノ通常議會ニ提案ヲ致ス考ヘデ居リマス、今次增稅案ノ作成ニ當リマシテハ、一面國民精神ノ緊張、生活態様ノ刷新ヲ圖ル一助ニ致シマスルト同時ニ、負擔力ノ關係ヲ考慮致シマシテ、奢侈的消費ニ對シテハ可及的高率ノ課稅ヲ致シマスルト共ニ、國民生活上此ノ際トシテハ比較的不急ト認メラル、方面ノ消費ニ對スル其ノ課稅ニ付、或程度稅率ヲ引上げ、又ハ課稅ノ範圍ヲ擴張スルト云フ方針ヲ採用致シタノデアリマス、尙間接稅ノ課稅ノ對象トナル課稅物件ニ付キマシテハ、今次ノ增稅ノ金額ニ相當スルダケ價格ノ引上げヲ行ヒマスルコトハ、間接稅ノ性質、増徵ノ目的等ニ照シマシテ之ヲ容認ヲ致シタトイ考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ今回ノ增稅案ノ内容ノ概略ヲ申上げマス、先ツ酒稅ニ付キマシテハ、總稅額ニ於テ大體五割程度ノ增徵ヲ致ストニ致シタノデアリマス、酒類ノ中デ消費高ノ最モ多イ清酒ニ付テ申上げマスレバ、現在一石ニ付造石稅四十五圓、庫出稅二十五圓、合計七十圓ノ稅デアリマスルガ、今回ハ庫出稅ヲ三十圓上ゲテ造石稅ト合シテ百圓ト相成ルノデアリマス、其ノ他ノ酒ノ類ニ付キマシテモ、清酒トノ權衡ヲモ考ヘマシテ、主トシテ庫出稅ニ付キマシテ、ソレトノ適當度認ムル稅率ヲ引上げルコト致シテ居ルノデアリマス、次ニ清涼飲料稅ニ付キマシテハ、總稅額ニ於テ五割程度ノ增徵ト致シ、各種別ニ付キマスル增徵ノ割合ハ、第一種玉「ラムネ」ニ輕ク、第三種「ソーダ」水等ニ重ク致シマス、行フコトト相成ルテ居リマス、次ニ砂糖消費稅ニ付キマシテハ、他ノ消費稅ニ比較致シマシテ增徵ノ程度ヲ最モ輕ク致シマシテ、總稅額ニ於テ大體二割程度ノ增徵ヲ行フコトト相成ルテ居リマス、次ニ物品稅ニ付テ申シマスレバ、物品稅ノ中、第一種及

第二種ハ、奢侈的性質ヲ有スル物品デアリマス、又國民生活上比較的不急ト認メラレテス、居ル物品デアリマスルノデ、旁其ノ消費方法、是等ニ付キマシテハノ引上割合ヲ負擔力ヲモ示スト考ヘラレルノデアリマスルカラ、是等ノ物品ニ付キマシテハ、今次ノ増稅ノ趣旨等ニ顧ミマシテ奢侈的性質ガ急ト認メラル、方面ノ消費ニ對スル其ノ課稅ニ付、或程度稅率ヲ引上げ、又ハ課稅ノ範圍ヲ擴張スルヲ、百分ノ五十三引上げ、其ノ他ノ物品即チ乙類ニ付キマシテハ、現行稅率百分ノ十ヲ原則トシテ百分ノ二十ニ引上げ、範圍ヲ擴張ヲ致シテ居ルノデアリマス、尙又現行ノ課稅最低限ハ、之ヲ相當程度引下ゲマスルコト共ニ、課稅目的の物品ノ度數引下ゲマスルト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、尙又現行ノ課稅最低限ハ、之ヲ相當程度引下ゲマスルコトト相成ッテ居リマス、以上今回ノ增稅ニ依リス、骨牌稅ニ付キマシテハ、十割程度ノ増徵デアリマス、物品切手ニ對シマシテモ印紙稅ヲスルコト致シ、現行稅率百分ノ十二ニ引上グル案ト致シテアリマス、骨牌稅ニ付キマシテハ、十割程度ノ増收ト相成リマス、昭和十六年度ニ於キマシテ新タニ課稅スル物品ノ大部分ハ之ヲ内類ニ入レマシテ、百分ノ十ノ稅率ヲ課スルコトト相成ッテ居リマス、物品稅中第三種ニ付キマシテハ、砂糖トノ權衡ヲ考慮致シマシテ、飴類ニ付キマシテハ二割程度ノ増徵デアリマス、又新タニ「サツカリン」ニ付シテ課稅スルコトト致シテ居ルノデアリマス、次ニ遊興飲食稅ニ付キマシテハ、今次增稅ノ趣旨ニモ顧ミマシテ最モ大幅ノ增稅ヲ致シマシテ、即チ其ノ最高稅率が現在百分ノ三十デアリマスルモノヲ、百分ノ百ニ上げマシテ、其ノ他ノ稅率ニ付キマシテモ相當ノ引上ヲ行ヒマス、同時に相成ッテ居リマス、次ニ地方分與稅法中改正ハ、入場稅及收額ノ各半額ヲ、地方分與稅分與金特別會計ニ繰入レマシテ、地方團體ニ分與スルニ改訂ニ關スルモノニアリマス、地方分與稅法ト相成ニ居ルノデアリマスルガ、今回ノ入場稅及遊興飲食稅ノ徵收額ノ各半額ヲ、地方分與稅分與金特別會計ニ繰入レマシテ、地方團體ニ分與スルニ改訂ニ關スルモノニアリマス、地方分與稅法ト相成ニ居ルノデアリマスルガ、今後ノ入場稅及遊興飲食稅ニ付キマスル増稅ハ、總稅額ニ付キマシテ、即チ其ノ最高稅率が現在百分ノ三十デアリマスルモノヲ、百分ノ百ニ上げマシテ、其ノ他ノ稅率ニ付キマシテモ相當ノ引上ヲ行ヒマス、以上ノ増徵ヲ致スモノデ、此ノ兩稅ノ配付稅總額ヲ從前ト同ジ額ニ致シテ變動ヲ來サシヌ爲ニハ、斯ルノヲ、百分ノ二十乃至百分ノ三十デアリマス、スルモノノデアリマス、以上酒稅等ノ增徵等

此ノ際相當大額ノ增徵ヲ行フコト致シ、現行稅率百分ノ十乃至百分ノ三十デアリマス、スルモノヲ、百分ノ八十三引上ゲル案デアリマス、通行稅ニ付キマシテノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シテ、該稅等ノ關スル法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ說明申上ゲタ次第デアリマス、何卒御審議

シマン

O子爵戸澤正巳君 只今議題トナリマシタ酒稅等ノ增徵等ニ關スル法律案ノ特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

O子爵秋田重季君 賛成 O議長(伯爵松平頼義君) 戸澤子爵ノ動議

ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔近藤書記官朗讀〕

O議長(伯爵松平頼義君) 御異議ナイト認

スマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

○議長(伯爵松平頼義君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼義君) 御異議ナイト認

スマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

○議長(伯爵松平頼義君) 御異議ナシト呼フ者アリ

法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年十一月十九日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

小山 松壽

案 昭和十二年法律第八十四號中改正法律
昭和十二年法律第八十四號中改正法律
ス

「百九十九億四千九百萬圓」ヲ「二百一十六
億千九百萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

昭和十二年法律第八十四號ハ支那事變
ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行
案

昭和十三年法律第二十三號ハ關東局、

二關スル法律ナリ

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長小山 松壽

昭和十六年十一月十九日

昭和十三年法律第二十三號中改正法律

案

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
附則

朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特
別會計ニ於ケル今回ノ煙草定價改正ニ依ル
當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ
繰入ルコトニ關スル法律ナリ

〔國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（賀屋興宣君）只今議題トナリ
マシタ昭和十二年法律第八十四號中改正法
律案外一件ニ付キマシテ、其ノ提出ノ理由
ヲ説明致シマス、先づ昭和十二年法律第八
十四號中改正法律案ニ付御説明申上ゲマス、

至第七十六回ノ各帝國議會ノ協賛ヲ經マシ
テ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發行ヲ爲シ
得ル權能ヲ得テ居ルノアリマスルガ、事
態ノ推移ニ伴ヒマシテ、更ニ三十八億圓ノ

臨時軍事費ニ付キマシテハ、第七十二回乃
至第七十六回ノ各帝國議會ノ協賛ヲ經マシ
テ、其ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發行ヲ爲シ
得ル權能ヲ得テ居ルノアリマスルガ、事
態ノ推移ニ伴ヒマシテ、更ニ三十八億圓ノ

臨時軍事費ニ付キマシテハ、一般
處、其ノ所要財源ノ中ニ於キマシテ、二億
二千九百九拾餘萬圓ニ付キマシテハ、一般
會計及各特別會計ヨリノ繰入金等ヲ以テ充
當スルコトガ出來マスルガ、差引三十五億
七千餘萬圓ニ付キマシテハ、今日ノ場合之
ヲ公債財源ニ依ルコト致シマスル爲、昭
和十二年法律第八十四號中公債ノ發行限度
ヲ增加スルノ必要ガアリマス、仍テ本法律
案ヲ提出致シタ次第アリマス、次ニ昭和
十三年法律第二十三號中改正法律案ニ付キ
マシテ説明致シマス、昭和十三年法律第二
十三號ノ規定ニ依リマシテ、關東局、朝鮮總
督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨ
リ、其ノ租稅收入又ハ煙草專賣ノ收入ノ一
部ヲ、臨時軍事費特別會計ニ繰入ル、コト
ニ相成ヌテ居リマスルガ、今回新タニ朝鮮總
督府及臺灣總督府並ニ樺太廳ノ各特別會計
ニ於キマスル酒稅又ハ骨牌稅ノ昭和十六年
度以降ノ増徵ニ依ル増收額、臺灣總督府特

別會計ニ於ケル遊興飲食稅ノ創設ニ依ル收
入額、並ニ朝鮮總督府及臺灣總督府ノ各特
別會計ニ於ケル今回ノ煙草定價改正ニ依ル
飲食稅ノ分ニ付キマシテハ、現行法ノ規定
ニ依リマシテ、之ガ繰入ハ可能デアリマス
ルガ、其ノ他ノ分ニ付キマシテハ繰入ノ規
定ガアリマセヌノデ、ソレヲ可能ト致シマ
スル爲ニ、右法律中改正法律案ヲ提出致シ
マシタ次第アリマス、以上二件ノ法律案

○子爵戸澤正己君、只今上程セラレマシタ
ニ付キマシテハ、何卒御審議ノ上速カニ協
議ノ指名ヲ議長ニ一任スルコトノ動議ヲ提
出致シマス

○子爵戸澤正己君、只今上程セラレマシタ
ニ付キマシテハ、何卒御審議ノ上速カニ協

議ノ指名ヲ議長ニ一任スルコトノ動議ヲ提
出致シマス

○子爵秋田重季君、賛成

○議長（伯爵松平賴壽君）戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）御異議ナイト認
メマス、賀屋大藏大臣

昭和九年法律第二十九號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年十一月十九日

貴族院議長小山 松壽

衆議院議長賀屋大藏大臣

〔高山書記官朗讀〕

○議長（伯爵松平賴壽君）報告ヲ致サセマ
ス

〔高山書記官朗讀〕

本日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
昭和九年法律第二十九號中改正法律案
臺灣米穀移出管理特別會計法ノ特例ニ關
スル法律案

○議長（伯爵松平賴壽君）此ノ際議事日程
ニ追加シテ、昭和九年法律第二十九號中改
正法律案、臺灣米穀移出管理特別會計法ノ
特例ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送
付、是等ノ二案ヲ一括シテ議題トナシ、第
一讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌ
カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）御異議ナイト認
メマス、賀屋大藏大臣

昭和九年法律第二十九號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年十一月十九日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長賀屋大藏大臣

〔高山書記官朗讀〕

○議長（伯爵松平賴壽君）報告ヲ致サセマ
ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

昭和九年法律第二十九號ハ米穀需給調
節特別會計法中改正法律ナリ

臺灣米穀移出管理特別會計法ノ特例ニ
關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年十一月十九日

貴族院議長小山 松壽

衆議院議長賀屋大藏大臣

〔高山書記官朗讀〕

○議長（伯爵松平賴壽君）報告ヲ致サセマ
ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

昭和九年法律第二十九號ハ米穀需給調
節特別會計法中改正法律ナリ

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年十一月十九日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長賀屋大藏大臣

〔高山書記官朗讀〕

臺灣米穀移出管理特別會計法ノ特例ニ

關スル法律案

第一條 臺灣總督府ニ於テ米穀ノ配給上ノ必要ニ基キ米穀及米穀以外ノ食糧農

產物竝ニ其ノ加工品ノ買入及賣渡ヲ爲

ス場合ニ於テハ其ノ買入及賣渡ニ關ス

ル一切ノ歲入歲出ハ臺灣米穀移出管理

特別會計ニ屬セシム

臺灣米穀移出管理特別會計法第四條及

第五條中米穀トアルハ米穀及米穀以外ノ食糧農產物竝ニ其ノ加工品トス

第二條 移出又ハ輸出ヲ目的トシテ臺灣米穀移出管理特別會計ニ屬スル米穀ノ賣渡ヲ爲シタル場合ニ於テ當該米穀ニ付臺灣總督府特別會計ヨリ生產ヲ確保

第三條 政府ハ當分ノ内千五百萬圓ヲ限

リ臺灣米穀移出管理特別會計法第三條但書ノ金額ヲ超エテ借入ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル)

○國務大臣(賀屋興宣君) 只今議題トナリ
マシタ昭和九年法律第二十九號中改正法律案外一件ニ付キマシテ、其ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、先づ昭和九年法律第二十九號中改正法律案ニ付申上ゲマス、現下ノ米穀事情ニ顧ミ、米穀管理制度ヲ一層擴充スルコトト致シマス關係上、米穀需給調節特別會計ニ於ケル現行ノ米穀證券及借入金ノ最高限度額ハ十四億圓アリマスル處、同特別會計ニ於テハ其ノ買入及賣渡ニ關スル切ノ歲入歲出ハ臺灣米穀移出管理特別會計ニ屬セシム

ヲ以テ致シマシテハ、同特別會計ノ運營ガ著

產業設備營團法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年十一月十九日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿 松壽

衆議院議長 小山

貴族院議長伯爵松平賴壽君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

昭和九年法律第二十九號中改正法律案外

一件特別委員

○議長(伯爵松平賴壽君) 尚榮議院ヨリ議案ノ送付アル見込デゴザイマスルカラ、午後五時迄休憩ヲ致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 午後四時九分休憩

午後五時三十六分開議

○議長(伯爵松平賴壽君) 尚榮議院ヨリ議案ノ送付アル見込デゴザイマスルカラ、午後五時迄休憩ヲ致シマス

五	役員ニ關スル事項
六	業務及其ノ執行ニ關スル事項
七	産業設備債券ノ發行ニ關スル事項
八	會計ニ關スル事項
九	公報ノ方法
第六條	産業設備營團ハ勅令ノ定ムル所コトヲ得
第七條	産業設備營團ハ他ノ業務ヲ掌理ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ	副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業設備營團ヲ代表シ其ノ業務ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第七條	産業設備營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課ゼズ
北海道、府縣、市町村其ノ他ニ準ズベキモノハ産業設備營團ノ事業又ハ第十七條第一項第一號若ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル建物ノ建設若ハ取得若ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ産業設備營團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限り在ラズ	産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
第八條	産業設備營團ガ第十七條第一項第一號又ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル不動產ニ關スル權利ノ取得又ハ所有權ノ保有ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ其ノ登記税ノ額ハ不動產價格ノ千分之一トス
第九條	産業設備營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十條	産業設備營團ニ非ザル者ハ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
第十一條	民法第四十四條、第五十條、手續法第三十五條第一項ノ規定ハ産業設備營團ニ之ヲ準用ス
第十二條	産業設備營團ニ總裁副總裁各

一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク	二、前號ノ規定ニ依リ取得シタル設備ノ貸付、出資及賣渡
總裁ハ産業設備營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス	副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業設備營團ヲ代表シ總裁ヲ輔佐シテ産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ	副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
第七條	産業設備營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課ゼズ
北海道、府縣、市町村其ノ他ニ準ズベキモノハ産業設備營團ノ事業又ハ第十七條第一項第一號若ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル建物ノ建設若ハ取得若ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ産業設備營團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限り在ラズ	産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
第八條	産業設備營團ガ第十七條第一項第一號又ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル不動產ニ關スル權利ノ取得又ハ所有權ノ保有ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ其ノ登記税ノ額ハ不動產價格ノ千分之一トス
第九條	産業設備營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十條	産業設備營團ニ非ザル者ハ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
第十一條	民法第四十四條、第五十條、手續法第三十五條第一項ノ規定ハ産業設備營團ニ之ヲ準用ス
第十二條	産業設備營團ニ總裁副總裁各

第一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク	二、前號ノ規定ニ依リ取得シタル設備ノ貸付、出資及賣渡
總裁ハ産業設備營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス	副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業設備營團ヲ代表シ總裁ヲ輔佐シテ産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ	副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
第七條	産業設備營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課ゼズ
北海道、府縣、市町村其ノ他ニ準ズベキモノハ産業設備營團ノ事業又ハ第十七條第一項第一號若ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル建物ノ建設若ハ取得若ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ産業設備營團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限り在ラズ	産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
第八條	産業設備營團ガ第十七條第一項第一號又ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル不動產ニ關スル權利ノ取得又ハ所有權ノ保有ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ其ノ登記税ノ額ハ不動產價格ノ千分之一トス
第九條	産業設備營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十條	産業設備營團ニ非ザル者ハ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
第十一條	民法第四十四條、第五十條、手續法第三十五條第一項ノ規定ハ産業設備營團ニ之ヲ準用ス
第十二條	産業設備營團ニ總裁副總裁各

第一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク	二、前號ノ規定ニ依リ取得シタル設備ノ貸付、出資及賣渡
總裁ハ産業設備營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス	副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業設備營團ヲ代表シ總裁ヲ輔佐シテ産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ	副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
第七條	産業設備營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課ゼズ
北海道、府縣、市町村其ノ他ニ準ズベキモノハ産業設備營團ノ事業又ハ第十七條第一項第一號若ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル建物ノ建設若ハ取得若ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ産業設備營團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限り在ラズ	産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
第八條	産業設備營團ガ第十七條第一項第一號又ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル不動產ニ關スル權利ノ取得又ハ所有權ノ保有ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ其ノ登記税ノ額ハ不動產價格ノ千分之一トス
第九條	産業設備營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十條	産業設備營團ニ非ザル者ハ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
第十一條	民法第四十四條、第五十條、手續法第三十五條第一項ノ規定ハ産業設備營團ニ之ヲ準用ス
第十二條	産業設備營團ニ總裁副總裁各

第一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク	二、前號ノ規定ニ依リ取得シタル設備ノ貸付、出資及賣渡
總裁ハ産業設備營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス	副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業設備營團ヲ代表シ總裁ヲ輔佐シテ産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ	副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
第七條	産業設備營團ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課ゼズ
北海道、府縣、市町村其ノ他ニ準ズベキモノハ産業設備營團ノ事業又ハ第十七條第一項第一號若ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル建物ノ建設若ハ取得若ハ土地ノ取得ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ産業設備營團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ内務大臣及大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限り在ラズ	産業設備營團ノ業務ヲ掌理ス
第八條	産業設備營團ガ第十七條第一項第一號又ハ第三號ノ業務ノ爲ニスル不動產ニ關スル權利ノ取得又ハ所有權ノ保有ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ其ノ登記税ノ額ハ不動產價格ノ千分之一トス
第九條	産業設備營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十條	産業設備營團ニ非ザル者ハ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
第十一條	民法第四十四條、第五十條、手續法第三十五條第一項ノ規定ハ産業設備營團ニ之ヲ準用ス
第十二條	産業設備營團ニ總裁副總裁各

一 國債、地方債又ハ政府ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト
二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便時金ト爲スコト

第三十三條 産業設備營團ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第六章 監督及補助 第三十四條 産業設備營團ハ政府之ヲ監督ス

第三十五條 産業設備營團ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十六條 産業設備營團ハ業務開始ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十七條 政府ハ産業設備營團ニ對シ産業設備營團ハ毎事業年度ノ初ニ於テ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十八條 役員ガ法令定款若ハ政府ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 政府ハ産業設備營團ニ對シ第十七條ニ規定スル業務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ交付スペキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ損失ヲ決定スル基準ハ政府之ヲ定ム

第四十條 前條第一項ノ損失及其ノ額ハ

第四十一條 左ノ場合ニ於テハ産業設備營團ノ總裁、副總裁、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ政府ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ之ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第二十一條又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ違反シ産業設備債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

四 第三十二條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

五 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第六章 監督及補助 第四十二條 左ノ場合ニ於テハ産業設備營團ノ總裁、副總裁、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第三十三條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第三十九條 第十條ノ規定ニ違反シ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則 第四十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 政府ハ設立委員ヲ命ジ産業設備營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十六條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十七條 定款ニ付政府ノ認可アリタ

ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ第

一回ノ拂込ヲ裏詣スベシ

第四十八條 出資ノ第一回ノ拂込アリタハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 罰則

一 本法ニ依リ政府ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ之ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三 第二十一條又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ違反シ産業設備債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

四 第三十二條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

五 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第六章 監督及補助 第四十二條 左ノ場合ニ於テハ産業設備營團ノ總裁、副總裁、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第三十三條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第三十九條 第十條ノ規定ニ違反シ産業設備營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則 第四十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 政府ハ設立委員ヲ命ジ産業設備營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十六條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十七條 定款ニ付政府ノ認可アリタ

アルノデアリマシテ、現有設備ノ高度ノ利

用ト我が國經濟總力發揮ノ見地ニ立ツテ、此際是等設備ノ中、苟モ活用シ得ベキモノハ、餘斯所ナク之ヲ活用シ、整理スルモ差

支ナキモノハ之ヲ整理シテ再生活用ノ途ヲ

圖リ、又將來ノ生產擴充上際要ナル設備ハ、之ガ維持ニ必要ナル措置ヲ講ジ、以テ所謂

ハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務

ノ、産業設備營團總裁ニ引繼グベシ

總裁前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ

ハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務

ノ、産業設備營團總裁ニ引繼グベシ

總裁前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ

ハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務

ノ、産業設備營團總裁ニ引繼グベシ

總裁前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ

ハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務

ノ、産業設備營團總裁ニ引繼グベシ

總裁前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ

ハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ

テ右ニ申述ベマシタルニツノ重要目的ヲ達成スル爲ノ母體機關タル重要使命ヲ擔當スベキモノトシテ、全額政府出資ニ係ル產業設備營團ヲ設立シ、右營團ヲシテ國家緊要產業ノ設備ノ建設、貸與、出資、未動遊休設備ノ賣買保有等ノ業務ヲ行ハシメムトスル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ致シマス

○議長(柏倉松平頼壽君) 質疑ノ通告ガゴザイマス、御許ヲシマス、子爵大河内輝耕君

○國務大臣岸信介君(演壇ニ登ル) 産業設備營團法第十九條ノ規定ニ依ル國債證券ノ移轉

○子爵大河内輝耕君(演壇ニ登ル) 誠ニ遲クナリマシタ

○子爵大河内輝耕君(演壇ニ登ル) 誠ニ遲クナリマシタ

○子爵大河内輝耕君(演壇ニ登ル) 誠ニ遲クナリマシタ

○子爵大河内輝耕君(演壇ニ登ル) 誠ニ遲クナリマシタ

○子爵大河内輝耕君(演壇ニ登ル) 誠ニ遲クナリマシタ

ト協力ヲ求メ、愈々舉國一致ノ實ヲ舉ガルコトヲ圖ル所存デアル、政府提出議案ハ特ニ緊急已ムヲ得ザルモノニ限定シ、即チ追加豫算案トシテハ軍事費及米穀増產臨時對策ニ必收ナルモノトシ、法律案トシテハ購買力吸收ヲ目的トスル増稅案並ニ右米穀對策ニ伴フ法律案トスルコトニ決定シタ、尙過日公布セラレタ緊急勅令ノ事後承諾案二件モ此ノ臨時議會ニ提出セラレル「斯ウ云フヤウニ明確ニ何ヲ出スト云フコトガ分ッテ居ル、ドウシテ是ハ十月二十五日以後ニコソナモノガ突然ニ起テ來タノカ、斯ウ云フ案ガ、果シテ前内閣が提出スル見込ニアツタノヲ止メタノカ、止メテ抛ツテ置イタノカ、或ハ現内閣ガ急ニコソナコトヲ思ヒ立ッテヤリ出シタノカサウシテ之ガ一遍發表ニナツタ後カラ斯ウ云フ風ニ變テ來タノカ、此ノ事情ヲ詳細ニ伺ヒタイ、ソレカラ第一點ハ、此ノ遊休設備ノ買收ハ時價デヤルト云フコトニ承テ居ル、時價ト言ヒマスト、私ハ少シ疑ナキヲ得ナイ、此ノ前ニ鐵ヤ銅ヲ買收シマス際ニハ、是ハ潰シ值デ買フングダト云フスウ云ブ御話ダッタ、ソレハ私ハ少シ無理ダト思フ、門ニシロ、鐵瓶ニシロ、洗面器ニシロ、鬼ニ角使ハレテ居ルモノデアル、是ハドウスウニ書イテアリマスヤウニ、ドウニモモ時價デタク、潰シ值デ買フト云フコトハ少シ無理ダ、處方は時價デ買フ、遊休設備、茲ニ書イテアリマスヤウニ、ドウニモスウニモナラナクナッテシマッタ設備、未動設備トシテへ將來完成ノ豫測ノ付カナイモノヲ稱シ、トスウ云フ風ニアル、近キ将来ニ完成スルコトノ確實ナ建設中ノ設備ハ一塊除外シテアル、ソレナラ見込ノナイ設備デアル、是ハ時價デ買ヒニナルト云フノハ少シク其ノ意ヲ得ナイ、將來何時用ヒルノカ分ラナイヤウナハ、是コソ潰シ值デ買グデ宜イ、其ノ點ガ如何デスカ伺ヒタイ、ソレカラ又承ル所ニ依ルト、ドウニモスウニモナラナイ設備ト云フノガ、二十五億カ

リマスガ、其ノ中テ一部ダケ引抜イテ、確カ維持シテ持ツテ行ケルモノガ三億圓、廢棄ソレヲスッカリ買フト云フナラマダ分ツテ居ノガ二億六千萬圓、斯ウ云フ風ニ分ケテ、是ダケハ買フノダト云フ御話、是ハ新聞ニ書イテアリマス、併シ商相發表トアル、近頃ノ新聞ハサウ無茶ニ書キマセヌカラ本當ダラウト思フ、併シハ伺ヒ達ビカモ知レマセヌ、兎ニ角買フト云フコトハ事實デアル、假リニ一部ヲ買フコトガ事實ダトスレバ、ドウ云フ譯デ之ヲ御分ケニナツタカ、是ハ餘程ハツキリシタコトガナケレバナラズ、買ハレル人ハ宜イカモ知レマセヌ、時價レドモ買ハレナイ者ニナツテ見タナラバ、是ハ持テ餘シモノデアル、是ハ餘程公平ナハ、是ハ標準ガアルノカト云フ區分ガナケレバ、非常ナ不公平ナ結果ヲ生ジテ、ソコニトンデモナイ事態ヲ生ジナイコトヲ伺ヒタイ、若シ又出來マスコトナラ、主ニ斯ウ云フモノヲ買フノダ、何處ノ會社ノドレヲ買フノダグト云フ主ナモノガ分ツテ居タナラバ、ソレモ併セテ伺ヒタイ。

○國務大臣岸信介君演壇ニ登る
（國務大臣岸信介君演壇ニ登る）
大河内子爵ノ御質問ニ對シマシテ御答ヲ致シマス、本法案ヲ提案スルニ至リマシタ事情、特ニ臨時議會ニ付テ追加サレテ居リマス事柄ハ既ニ御承知ノ通り、其處ニ發表サレマシタ當時ニモノ以外ニ於キマシテモ、刻下ノ狀態カラ緊急ダト思ハレル所ノ二三豫算其ノ他法案ニ付テ追加サレテ居リマス事柄ハ既ニ御承知ノ通りデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、本案が最モ緊急大要スルモノトシテ、本議會ニ提案サレタ次第デアリマス、シテ居タノデアリマス、丁度臨時議會ガ召集出来マシテカラ、私共ノ痛感シテ居ル所ニアリマシテ、之ニ對スル積極的ノ施設ヲ如何致スベキカト云フコトハ、豫テ考究致シテ居タノカツタノデアリマス、併シナガラサレルト云フコトガ發表サレマシタ當時ニシテ居ラナカツタノデアリマス、併シナガラ御承知ノ通り、其處ニ發表サレマシタ當時ニモノ以外ニ於キマシテモ、刻下ノ狀態カラ緊急ダト思ハレル所ノ二三豫算其ノ他法案ニ付テ追加サレテ居リマス事柄ハ既ニ御承知ノ通りデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、本案が最モ緊急大要スルモノトシテ、本議會ニ提案サレタ次第デアリマス、シテ、評價委員等ノ協力ニ依リマシテ、是等ノ設備ヲ營團ヲシテ買上ガサスベキ値段ノ價格ノ問題ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテハ法律ヲ施行致シマスル上ニ於キマシテ、本議會ニ提案サレタ次第デアリマス、シテ、評價委員等ノ協力ニ依リマシテ、是等ノ設備ヲ營團ヲシテ買上ガサスベキ値段ノ基準ヲ審議決定セシムル考ヘデアリマシテ、必ズシモ時價デ之ヲ買フト云フ考ヘデハナナ

ラズ、一面ニ於キマシテハ、國家非常ノ時ニ際シテ是等ノ未動遊休施設ヲ更ニ再生活用スルノ途ヲ開クト云フ、國家的目的カラ遊休施設ノ中、本營團ガ取扱フ所ノモノハ其ノ一部デアルト云フ事柄ハ、私共モサウ事務救濟ニ墮スルト云フコトノナイヤウニ是ハ施行スル考ヘデアリマス、第三ニ、未動遊休施設ノ中、是ハ未動遊休施設ノ中、是ハ勿論產業ノ種別ニ依テ達ビマスガ、相當ノ部分ハ、業者自テ若シクハ業者ノ團體ニ之ヲ保有セシムルコトガ適當デアルモノモアルト思ヒマス、此ノ營團ニ於テ取扱フ所ノモノハ、今申述ベマシタヤウニ、緊急ノ必要カラ業者又ハ業者ノ團體ニ保有セシムルコトガ適當デナイン、斯ウ云フ國家ノ積極的施設ニ依ツテ之ヲ肩替リスルコトガ適切デアル、斯ウ思ハレルモノニ付キマシテ、此ノ營團ガ取扱フト云フコトヲ御承知願ヒタイト思ヒマス、右御答ヘ申上ゲマス○子爵大河内經耕著、餘リオウルサイヤウデスガ、モウ一應伺ヒタイ、外ノ法律案モ出シタト仰シヤルケレドモ、外ノ法律案モ例ヘバ役法トカ云フモノトハマルデ性質ガ違フ、斯ウ云フヤウナ經濟法律デアツテ、此ノ次ノ通常議會ニ御出シニナツテモ、何時カラヤラナケレバナラナイト云フモノデモナシ、準備シテ置イテ、サウシテコンナ短イ議會デナク來年度……來年度テハナシテ、此ノ次ノ通常議會ニ御出シニナツテモ、決シテ政府トシテハ間ニ合ハナイコトハナカラウ、サウシテサウ云フヤウニ緊急ノモナラバ、此ノ情報局ノ發表、組閣當時ニイ此ノ次ノ通常議會ニ御出シニナツテモ、決ラナケレバナラナイト思ツテ居ル、外カラ他動的ニ來タモノデハナイン、其ノ點ガノナラバ、此ノ情報局ノ發表、組閣當時ニナラバ、此ノ情報局ノ發表、組閣當時ニ失禮デアリマスガ、能ク理解シ兼ネルノデアリマス、ソレカラ次ニ時價デ買フト仰シ

ヤルガ、ソレハ漬シ値デ買フノカ何デ買フ
ノカ、其ノ具體的ノ標準ヲ仰シヤラナケレ
バ分リマセヌ、時價デナケレバ何デ買フ
カ、具體的ニ標準ヲ御示シニナラナケレバ
分ラナイ、ソレカラ是ダケハ必要ダカラト
仰シヤルガ、其ノ必要カ必要デナイカト云
フコトハ、如何ナル具體的標準デ見ルノカ、
國家デ買フ必要ノナイモノハ拋テ置イテ
宜イカ、ドウモ同ジヤウナモノヤ、同ジ機
械ガアツテ、ドレガ必要カ必要デナイカト云
フコトヲ見ルノハ、モウ少し具體的ノ標準
ガナケレバ分リマセヌ

〔國務大臣岸信介君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(岸信介君) 御答ヲ申上ゲマス、
本件が非常ニ緊急ナモノデアルト云フ事柄
ハ、私ノ説明ガ大河内子爵ニ遺憾ナガラ徹
底シナカツタヤウデゴザイマスガ、私が先程
來申上ゲマス通り、現下ノ情勢カラ觀マシ
テ、是ハ我ガ國ノ國內ニ蓄積シテアル所ノ
物的、活用サレテ居ラナイ資材ト云フモノ
ヲ、再生活用スルノ要ハ、非常ニ急イデヤ
ラナケレバナラヌコトダト思ヒマス、又今
後ノ國際情勢ノ推移ヲ頭ニ置キマス時ニ於
キマシテハ、是ハ一日モ忽セニスルコトハ
出來ナイト思ヒマス、尙又申上ゲル迄モナ
ク軍事豫算ノ非常チ増大ハ、一面ニ於キ
シテ民需ノ方面ノ生産ノ率モ増大セネバナ
ラヌ情勢デアリマス、重點主義ヲ強化セネ
バナラヌ必要ガ愈、緊急トナッテ來ア居リマ
ス、政府ハ斯様ナ考ヘカラ本法案ヲ提案致
シマシタ次第アリマス、次ニ資產評價ノ圖
ル事柄ハ、我が戰時經濟遂行上、最モ緊急
標準デアリマスガ、是ハ各種ノ未動遊休施
設ニ依リマシテノ一々付キマシテ、實ハ
具體的ニドウスルノカト云フ事柄ハ相當ム
カシイ問題アリマス、ノミナラズ未動
遊休施設ト一口ニ申シマスケレドモ、其動

ノ中ニハ「スクラップ」トシテ利用スルノガ
適當デアリ、又「スクラップ」トシテ利用スベ
キヤウナ部分モアリマス、併シサウデハナク
行カナケレバナラナイ……將來ノコトヲ考
ヘテ保有シテ置カナケレバナラヌヤウナモノ
モアリマスシ、或ハ之ニ多少ノ手ヲ加ヘル
シテ、未動遊休施設トシテ或程度迄保有シテ
カ、其ノ他ノ方法ニ依テ他ニ轉用シ活用シ
得ルヤウナモノモアリマス、從ヒマシテ總
テノモノヲ一樣ナ評價標準デ以テ決定スル
譯ニハ參ラナイト思ヒマス、從ヒマシテ先
程申シマシタヤウニ、評價委員ヲ設ケテ之
ガ評價ノ基準ヲ定メテ參リタイト思ヒマス、

○國務大臣(岸信介君) 御答ヲ申上ゲマス、
本件が非常ニ緊急ナモノデアルト云フ事柄
ハ、私ノ説明ガ大河内子爵ニ遺憾ナガラ徹
底シナカツタヤウデゴザイマスガ、私が先程
來申上ゲマス通り、現下ノ情勢カラ觀マシ
テ、是ハ我ガ國ノ國內ニ蓄積シテアル所ノ
物的、活用サレテ居ラナイ資材ト云フモノ
ヲ、再生活用スルノ要ハ、非常ニ急イデヤ
ラナケレバナラヌコトダト思ヒマス、又今
後ノ國際情勢ノ推移ヲ頭ニ置キマス時ニ於
キマシテハ、是ハ一日モ忽セニスルコトハ
出來ナイト思ヒマス、尙又申上ゲル迄モナ
ク軍事豫算ノ非常チ増大ハ、一面ニ於キ
シテ民需ノ方面ノ生産ノ率モ増大セネバナ
ラヌ情勢デアリマス、重點主義ヲ強化セネ
バナラヌ必要ガ愈、緊急トナッテ來ア居リマ
ス、政府ハ斯様ナ考ヘカラ本法案ヲ提案致
シマシタ次第アリマス、次ニ資產評價ノ圖
ル事柄ハ、我が戰時經濟遂行上、最モ緊急
標準デアリマスガ、是ハ各種ノ未動遊休施
設ニ依リマシテノ一々付キマシテ、實ハ
具體的ニドウスルノカト云フ事柄ハ相當ム
カシイ問題アリマス、ノミナラズ未動
遊休施設ト一口ニ申シマスケレドモ、其動

トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ
動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田重季君 贊成
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔高山書記官朗讀〕

產業設備營團法案特別委員

塚本

公爵桂 廣太郎君 侯爵井上 三郎君
伯爵兒玉 秀雄君 子爵大河内正敏君
子爵保科 正昭君 子爵高橋 是賢君
藤原銀次郎君 清治君
男爵伊藤 一郎君 男爵安場 保健君
男爵宮原 旭君 竹内 可吉君
太田 耕造君 稲畠勝太郎君
岩田 宙造君 中山 太一君
上野松次郎君 中野 敏雄君

○議長(伯爵松平頼壽君) 本日ノ議事ハ是
ニテ終リマス、明二十一日ハ會期終了日、ニア
リマスノデ、委員會ヨリ報告書ノ提出ガア
ルト存ジマスルカラ、午後ニ至リ急ニ本會議
ヲ開ク必要ガ生ズルカト存ジマス、其ノ際
議事日程ハ、院内ニ於テ配付スルコトニ致
シマス、午後二時迄ニ御登院ヲ願ヒマス、

本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時五十九分散會

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
産業設備營團法案ノ特別委員ノ數ヲ十八名
設